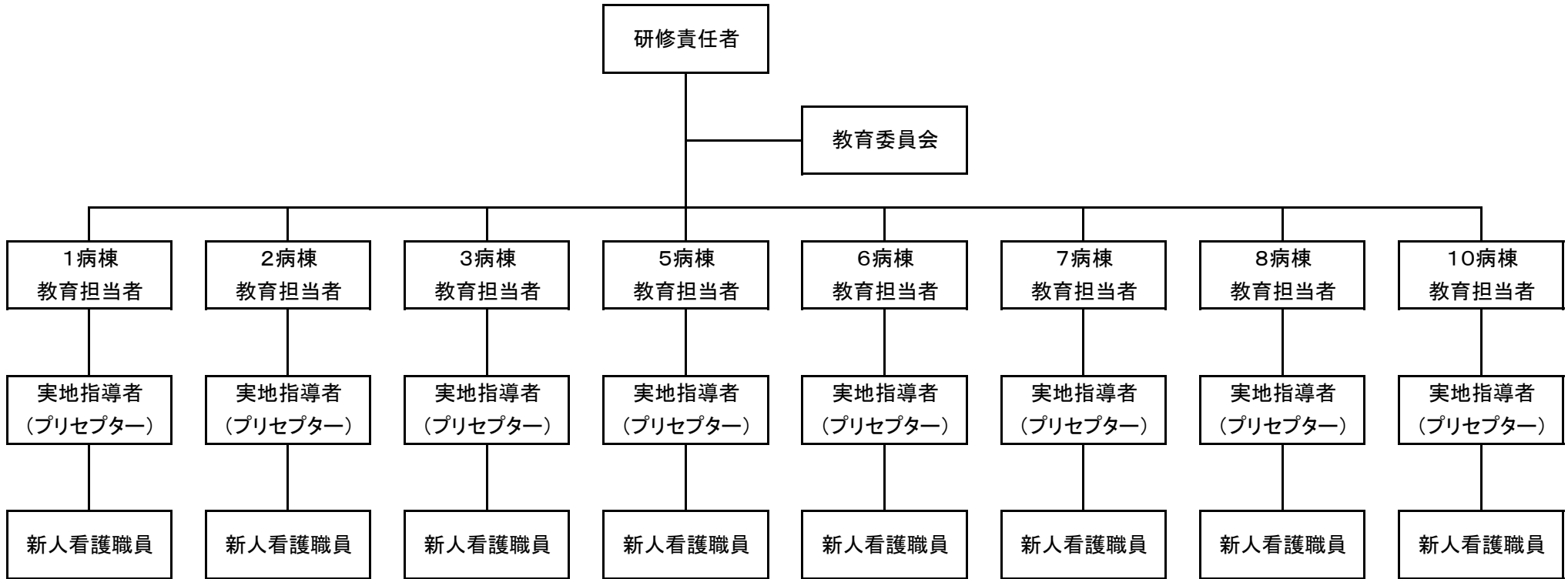


平成29年度 研修プログラム

研修項目	方法	4月	5月～7月	8月～11月	12月～3月
1. 新人看護職員研修の概要	講義・見学	オリエンテーション			
2. 看護師として必要な基本姿勢と態度	講義	精神医療の動向			
	講義	看護の動向			
	講義	看護部の組織と機能			
	講義	ホスピタリティマインド・医療機関における個人情報保護			
	講義	接遇研修		接遇研修	
	講義	人権研修・看護倫理			
	講義	精神保健福祉法と看護の実際		行動制限最小化について	
	講義	精神障害者の福祉・精神保健福祉士の役割			
	講義	精神障害者の地域支援体制			
		自立訓練施設・デイケア・訪問看護			
3. 技術的側面	講義	食事の援助		誤嚥防止対策	
	講義	清潔・衣生活援助技術			
	講義・実践	排泄の援助		紙オムツ装着法	
	講義	創傷管理技術		褥瘡の発生と予防	
	講義・実習	与薬の技術	注射処置の実際(静脈内・筋肉内・皮内注射)	IVH・輸液ポンプの管理	
	講義・実習		薬物療法・約束処方・誤薬防止対策		
	講義・実習	救命救急処置技術	急変時の対応・心肺蘇生・気管内挿管の介助	急変時の対応(BLS)	急変時の対応(BLS)
	講義・実習	症状・生体機能管理技術	身体計測・心電図・心理テスト・検尿・視力・聴力・血圧		急変時の対応(BLS)
	講義		精神疾患とその治療・精神障害者との関わり		
	講義		統合失調症急性期治療 治療関係構築		
	講義・見学		作業療法・精神科リハビリテーション		
	講義		精神科の看護(急性期・回復期)		
	講義		老年期合併症とその治療・転倒転落防止対策		
	講義・実習		エックス線検査について	心電図(12誘導)実践講座	
	講義		看護業務基準		
	講義	感染防止の技術	院内感染防止対策	スタンダードプリコーション	主な感染症と防止対策
	OJT	その他配属部署で	配属部署で必要な看護技術		結核の感染予防
		必要な看護技術	安全・情報・業務・薬剤・防災等の管理・環境・食事・排泄・活動・清潔等の技術		
4. 管理的側面	講義	安全管理	医療安全管理・精神科における事故防止対策	医療安全管理	医療事故
	講義・実践		医療職の包括的暴力防止プログラム(CVPPP)		
	講義・実習	災害・防災管理	防災対策	防災対策・避難訓練	防災対策・避難訓練
	講義	情報管理	情報管理(看護記録の実際)	個人情報保護法	
	講義		診療報酬の仕組み		
	講義		オーダーリングシステムの概要		
	講義				
フォローアップ研修(5月・6月・7月・9月・2月)	講義	振り返り(1カ月)(2ヶ月)	目標管理・振り返り(3カ月)	振り返り(6ヶ月)	振り返り(1年目)

平成29年度 新人看護職員研修における組織体制



看護職員として必要な基本姿勢と態度についての到達目標（平成29年度）

★：1年以内に到達を目指す項目

到達の目安 II：指導の下でできる I：できる

		★	到達の目安		
看護職員としての	①医療倫理・看護倫理に基づき、人間の生命・尊厳を尊重し患者の人権を擁護する	★			I
自覚と責任ある行動	②看護行為によって患者の生命を脅かす危険性もあることを認識し行動する	★			I
	③職業人としての自覚を持ち、倫理に基づいて行動する	★			I
	①患者のニーズを身体・心理・社会的側面から把握する	★			I
患者の理解と	②患者を一個人として尊重し、受容的・共感的態度で接する	★			I
患者・家族との良好な	③患者・家族がわかりやすい説明を行い、同意を得る	★			I
人間関係の確立	④家族の意向を把握し、家族にしか担えない役割を判断し支援する	★		II	
	⑤守秘義務を厳守し、プライバシーに配慮する	★			I
	⑥看護は患者中心のサービスであることを認識し、患者・家族に接する	★			I
組織における	①病院及び看護部の理念を理解し行動する	★			I
役割・心構えの理解	②病院及び看護部の組織と機能について理解する	★		II	
と適切な行動	③チーム医療の構成員としての役割を理解し協働する	★		II	
	④同僚や他の医療従事者と適切なコミュニケーションをとる	★			I
生涯にわたる主体的	①自己評価及び他者評価を踏まえた自己の学習課題をみつける	★			I
な自己学習の継続	②課題の解決に向けて必要な情報を収集し解決に向けて行動する	★		II	
	③学習の成果を自らの看護実践に活用する	★		II	

技術的側面：看護技術についての到達目標

★：1年以内に到達を目指す項目

到達の目安 IV：知識としてわかる III：演習でできる II：指導の下でできる I：できる

		★	到達の目安			
環境調整技術	(1)温度、湿度、換気、採光、臭気、騒音、病室整備の療養生活環境調整 (例：臥床患者、手術後の患者等の療養生活環境調整)	★				I
	(2)ベッドメイキング (例：臥床患者のベッドメイキング)	★				I
食事援助技術	(1)食生活支援				II	
	(2)食事介助 (例：臥床患者、嚥下障害のある患者の食事介助)	★				I
	(3)経管栄養法	★				I
排泄援助技術	(1)自然排尿・排便援助 (尿器・便器介助・可能な限りおむつを用いない援助を含む)	★				I
	(2)導尿					I
	(3)膀胱内留置カテーテルの挿入と管理					I
	(4)浣腸					I
	(5)排便				II	
活動・休息援助技術	(1)歩行介助・移動の介助・移送	★				I
	(2)体位変換 (例：(1)及び(2)について、麻痺等で活動に制限のある患者等への実	★				I
	(3)廃用性症候群予防・関節可動域訓練				II	
	(4)入眠・睡眠への援助	★			II	
	(5)体動・移動に注意が必要な患者への援助 (例：不穏、不動、情緒不安定、意識レベル低下、鎮静中、高齢者等への援助)	★			II	
清潔・衣生活援助技術	(1)清拭	★				I
(例：(1)から(6)について	(2)洗髪					I
全介助を要する患者、	(3)口腔ケア	★				I
ドレイン挿入、点滴を	(4)入浴介助					I
行なっている患者等	(5)部分浴・陰部ケア・おむつ交換	★				I
への実施)	(6)寝衣交換等の衣生活支援、整容	★				I
	(1)酸素吸入療法	★				I
	(2)吸引(口腔内、鼻腔内、気管内)	★				I
呼吸・循環を整える	(3)ネブライザーの実施		IV			
技術	(4)体温調整	★				I
	(5)体位ドレナージ				II	
	(6)人工呼吸器の管理		IV			
創傷管理技術	(1)創傷処置				II	
	(2)褥瘡の予防	★				I
	(3)包帯法				II	
与薬の技術	(1)経口薬の与薬、外用薬の与薬、直腸内与薬	★				I
	(2)皮下注射、筋肉内注射、皮内注射					I
	(3)静脈内注射、点滴静脈内注射					I
	(4)中心静脈内注射の準備・介助・管理				II	
	(5)輸液ポンプの準備と管理					I
	(6)輸血の準備、輸血中と輸血後の観察				II	
	(7)抗菌薬、抗ウイルス薬等の用法の理解と副作用の観察	★			II	
	(8)インシュリン製剤の種類・用法の理解と副作用の観察				II	
	(9)麻薬の種類・用法の理解と主作用・副作用の観察				II	
	(10)薬剤等の管理 (毒薬・劇薬・麻薬・血液製剤を含む)				II	
救命救急処置技術	(1)意識レベルの把握	★				I
	(2)気道確保	★			II	
	(3)人工呼吸	★			II	
	(4)閉鎖式心臓マッサージ	★			II	
	(5)気管挿管の準備と介助	★			II	
	(6)外傷性の止血				II	
	(7)チームメンバーへの応援要請	★				I
	(1)バイタルサイン(呼吸・脈拍・体温・血圧)の観察と解釈	★				I
	(2)身体計測	★				I
	(3)静脈血採血と検体の取り扱い	★				I
症状・生体機能管理	(4)動脈血採血の準備と検体の取り扱い				II	
技術	(5)採尿・尿検査の方法と検体の取り扱い					I
	(6)血糖値測定と検体の取り扱い	★				I
	(7)心電図モニター・12誘導心電図の装着、管理				II	
	(8)パルスオキシメーターによる測定	★				I
	(1)安楽な体位の保持	★			II	
苦痛の緩和・安楽確保	(2)審法等身体安楽促進ケア				II	
の技術	(3)リラクゼーション技法(例：呼吸法・自律訓練法等)				II	
	(4)精神的安寧を保つための看護ケア(例：患者の嗜好や習慣等を取り入れたケアを行う等)				II	
感染防止技術	(1)スタンダードプリコーション(標準予防策)の実施	★				I
	(2)必要な防護用具(手袋、ゴーグル、ガウン等)の選択	★				I
	(3)無菌操作の実施	★				I
	(4)医療廃棄物規定に沿った適切な取り扱い	★				I
	(5)針刺し切創、粘膜暴露等による職業感染防止対策と事故後の対応	★				I
	(6)洗浄・消毒・滅菌の適切な選択					I
安全確保の技術	(1)誤薬防止の手順に沿った与薬	★				I
	(2)患者誤認防止策の実施	★				I
	(3)転倒転落防止策の実施	★				I
	(4)薬剤・放射線暴露防止策の実施				II	
死亡時のケアに	(1)死後のケア				III	
関する技術						

管理的側面についての到達目標

★:1年以内に到達を目指す項目

到達の目安 II:指導の下でできる I:できる

		★	到達の目安			
安全管理	①施設における医療安全管理体制について理解する	★				I
	②インシデント(ヒヤリ・ハット)事例や事故事例の報告を速やかに行なう	★				I
情報管理	①施設内の医療情報に関する規定を理解する	★				I
	②患者等に対して、適切な情報提供を行う	★			II	
	③プライバシーを保護して医療情報や記録物を取り扱う	★				I
	④看護記録の目的を理解し、看護記録を正確に作成する	★			II	
業務管理	①業務の基準・手順に沿って実施する	★				I
	②複数の患者の看護ケアの優先度を考えて行動する	★			II	
	③業務上の報告・連絡・相談を適切に行なう	★				I
	④決められた業務を時間内に実施できるように調整する				II	
薬剤等の管理	①薬剤を適切に請求・受領・保管する(含、毒薬、劇薬、麻薬)				II	
	②血液製剤を適切に請求・受領・保管する				II	
災害・防災対策	①定期的な防災訓練に参加し、災害発生時(地震・火災・水害・停電等)には決め初期行動を円滑に実施する	★			II	
	②施設内の消火設備の定位置と避難ルートを把握し患者に説明する	★				I
物品管理	①規定に沿って適切に医療機器、器具を取り扱う	★			II	
	②看護用品・衛生材料の整備・点検を行う	★			II	
コスト管理	①患者の負担を考慮し、物品を適切に使用する	★			II	
	②費用対効果を考慮して衛生材料の物品を適切に選択する	★			II	

精神科における看護技術到達目標

★:1年以内に経験し修得を目指す項目

到達の目安 II:指導の下でできる I:できる

		★	到達の目安			
処遇の理解と対処技術	①患者や家族に対して入院形態の説明ができる	★				I
	②指示に従って入院患者を受け入れることができる	★				I
	③行動制限の種類と内容を理解し説明できる	★				I
	④外出・外泊時の対応ができる	★				I
	⑤通信に関して対処できる	★				I
	⑥面会に関して対処できる	★				I
	⑦代理行為について理解し、対処できる	★				I
	⑧隔離室入室時、入室中、退室時のケアができる	★				I
	⑨身体拘束時、拘束中、解除時のケアができる	★				I
人的環境調整技術	①患者を理解し、信頼関係を築くようにかかわることができる	★				I
日常生活援助と自立支援	①日常生活上足りない部分を補うとともに自立に向けて支援することができる	★				I
社会資源	①社会資源の活用方法が分かる	★			II	
	②患者に対して適切な資源の活用を提案できる				II	
	③社会に適応するための技術の獲得に関する支援ができる	★				I
精神科の特徴の理解	①精神保健福祉法を理解し説明できる				II	
	②精神障がい者の入院形態の特徴を説明できる	★				I
	③疾病を理解し説明できる	★			II	
	④特徴的な症状を理解し説明できる	★			II	
	⑤症状を観察し記録することができる	★				I